

2016年1月21日(木)~22日(金)

## 『社会人のためのITS 専門講座』開催のご案内

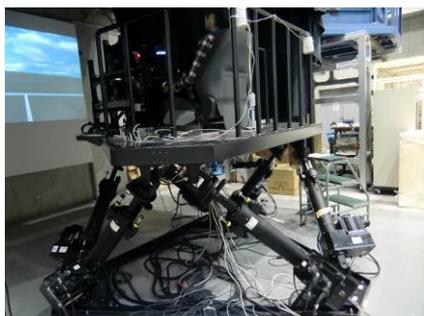
主催：東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター（ITSセンター）

東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター(ITSセンター)では、機械、情報通信、電気、電子、土木、交通等の様々なITS分野の最先端の技術を融合することにより、環境に配慮し、安全・安心、かつ快適な高度道路交通システム(Intelligent Transport Systems:ITS)の研究開発を国家・地域プロジェクト、地域・民間企業との共同研究、大学間の連携により、実験ツールの開発、実証実験により、その成果を幅広く社会に還元してまいりました。

「社会人のためのITS 専門講座」は、最先端のITSの技術開発、実証実験の状況の報告、各研究室を見学していただくことにより、ITS関連の技術開発及び事業化と地域展開に必要な人材を育成することを社会貢献と考え、2004年から毎年開催しております。

本年度の「社会人のためのITS 専門講座」は2016年1月21日~22日2日間にわたり、生産技術研究所駒場コンベンションホールと千葉実験所で開催いたします。企業・地方公共団体・公設試験研究機関・大学・産業支援機関等の幅広い方々に、年初でご多忙中とは存じますが、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時	2016年1月21日(木)【受付開始】9:00~【専門講座】09:30~17:00 2016年1月22日(金)【受付開始】9:30~【専門講座】10:00~17:30
場所	【駒場会場】1月21日(木) 先着 250名 東京大学生産技術研究所コンベンションホール (An棟 2F) 〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1 <a href="http://www.iis.u-tokyo.ac.jp">http://www.iis.u-tokyo.ac.jp</a> 【千葉会場】1月22日(金) 先着 80名 東京大学生産技術研究所千葉実験所 大会議室(事務棟 1F) 〒263-0022 千葉県稲毛区弥生町 1-8 <a href="http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/">http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/chiba/</a>
参加費	無料
意見交換会	日時：2016年1月21日(木) 17:00~ 場所：コンベンションホール前 (An棟 2F) 会費：1000円
資料代	無料 * 資料については参加お申し込みの方に追ってご連絡いたします。
お申込み	参加ご希望の方は下記 Web ページからお申し込みください。 次世代モビリティ研究センターホームページ： <a href="http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp">http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp</a> ※参加申込締切：2016年1月12日(火)



ドライビングシミュレータ



PMV



ゴーグルをかけMR体験

# 1/21(木)プログラム

09:30～09:40	開講挨拶 藤井 輝夫 東京大学生産技術研究所所長				
09:40～10:30	<b>「サステイナブルな交通システム」</b> 須田 義大 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター長・教授 次世代モビリティの研究では、分野融合や地域連携などの取り組みが重要である。本研究センターでは機械、情報通信、土木、交通、電気・電子、音響等の様々な分野の最先端の技術を融合し、人・インフラ・ビークルの協調、モーダルミックス、産学官民の連携に重点を置いたサステイナブルな交通システムの実現に向けた研究を推進している。「環境低負荷・低炭素社会」、「安心・安全」、「快適・健康」を目標に進めている次世代モビリティの分野融合研究について、ドライビングシミュレータと交通シミュレーションを融合した複合現実感高越実験スペースと、千葉実験所の実証実験フィールドを活用した事例や、地域連携による実用化研究事例等を紹介する。				
10:30～11:20	<b>「自動走行技術の社会実装」</b> 大口 敬 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 教授 自動走行技術は高速道路の本線から実用化され、その後合流部や渋滞時にも適用され、やがては一般道にも展開する。そんなシナリオが本当に現実的効果的なのだろうか？本講では、安全・円滑・環境影響という自動車交通の問題緩和・解決に常に対峙してきた交通工学の視点から、自動走行技術を社会ニーズに合わせて実装へ向けて考慮すべき現状の課題、技術シーズとのマッチング、社会・制度上の障壁、導入シナリオと実装モデルなどについて考える。				
11:20～13:30	<b>昼休み及び研究室見学</b> ※前半後半の二つの時間帯からお選びいただきご見学ください。(各研究室約15分) ※予約制で行います。各研究室での定員は10名×2回＝20名です。				
	【前半】 ①11:30～ ②11:50～ (各15分)	須田・中野研究室 「ドライビングシミュレータとPMV」	大口研究室 「大規模交通シミュレーションと交通マネジメント」	坂本研究室 「音環境シミュレーション」	上條研究室 「自動運転へ向けた総合的研究」
	【後半】 ①12:20～ ②12:40～ (各15分)	大石・小野研究室 「都市空間モデリングと移動型仮想空間表現」	加藤(信)研究室 「様々な環境問題に対応する風洞実験室の紹介」	志村研究室 「時系列信号方式のホログラフィックメモリー」	瀬崎研究室 「スマートフォンによる参加型都市センシングと公共交通の情報化」
13:30～14:20	<b>「準静電界技術のITS応用と可能性」</b> 河野 賢司 東京大学生産技術研究所 特任研究員 人や自動車などの物体表面に分布する電気の層は、外からの刺激や接触物との相互作用によって時間的変化を持ち「準静電界」と呼ばれている。車体表面に生じる準静電界を利用した通信、センシングの応用と技術的課題について紹介する。				
14:20～15:10	<b>「道路交通と音響技術」</b> 坂本 慎一 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 准教授 交通における快適性と安全性の向上のために、音響的な観点から技術開発、技術支援を行っている。本講演では、環境騒音の高精度な予測法の開発や事故・災害等の非常時における避難誘導に対する音響技術の適用について紹介する。				
15:10～15:20	～ 休憩 ～				
15:20～16:10	<b>「道路交通における歩行者の行動特性」</b> 井料 美帆 東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 准教授 交通安全の実現のためには、道路上を移動する歩行者がどのような行動規範で移動するかを理解することが重要である。交通信号や車に対する歩行者の反応の実態分析に関する研究事例を紹介する。				
16:10～17:00	<b>「実世界の情報を収集するロボット技術」</b> 大野 和則 東北大学未来科学技術共同研究センター 准教授 ロボット技術を利用した実世界の電子化されていない情報の収集と社会応用に取り組んでいる。本講演では、実世界の情報を収集するロボットの構成要素や、レスキューロボット、インフラ点検ロボット、自動運転への応用について説明する。このような技術は、ITSのモバイルプローブとしての利用も期待出来る。				
17:00～	意見交換会				

# 1/22(金)プログラム

10:00～10:50	<b>開講挨拶 &amp; 千葉実験所紹介</b> 須田 義大 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター長・教授
生産技術研究所千葉実験所は、駒場リサーチキャンパスでは実施が困難な大規模実験を実施するスペースとして、生研独自の研究プロジェクトのみならず産学官民共同研究において活用されている。実スケール実験として、ITS センターでの取り組みをはじめ、海洋工学水槽、大型振動台などの活用事例を紹介する。	
10:50～11:40	<b>「ITS普及と交通政策 ～地域における実証的研究プロジェクト～」</b> 吉田 秀範 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 准教授
ITSセンターが地域をフィールドとして取り組んでいる実証的研究プロジェクトとして、柏市における鉄道・バス運行情報連携の社会実験、広島市での車車間通信による交通安全対策の実証実験等の概要を紹介し、これらITSサービスの交通政策上の意義、社会実装・普及の課題について考える。	
11:40～14:00	<b>昼休み 及び 研究室・施設見学</b>
<b>(1)ホワイトライノ→LRT 試験装置→(2)鉄道試験線→(3)ITS 実験用交通信号機→(4)海洋工学水槽</b>	
14:00～14:50	<b>「車内信号・標識の効果と受容性評価」</b> 中野 公彦 東京大学大学院情報学環・生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 准教授
車車間通信、路車間通信を用いることによって、交通信号および交通標識を自動車内で表示することが可能になった。ドライビングシミュレータを用いて、交通信号・標識を車内で提示することの効果ドライバの運転行動から示すとともに、運転中にディスプレイを見ることがドライバの視行動に与える影響を、視線計測を通じて検討した結果を紹介する。	
14:50～15:40	<b>「まちと震災のいま・過去を伝える ―震災遺構のデジタル保存と街並みの仮想復元― 」</b> 小野 晋太郎 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター 特任准教授
大震災から間もなく5年。我々はその間、被災前後の状況や震災遺構を、全方位映像や三次元形状データなどにより記録してきました。これらのセンシング技術や、CGによる仮想復元、移動型体験などの取り組みについて平易に紹介します。	
15:40～15:50	<b>～ 休憩 ～</b>
15:50～16:40	<b>「地方での高齢ドライバ支援を目指した自律運転知能システムの開発」</b> 伊藤 太久磨 東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員
現在の日本は世界に類を見ないレベルの超高齢社会となっており、公共交通が衰退しつつある地方での高齢者の移動手段の確保が求められている。我々はその解決策の一つとして、運転に必要な諸機能が衰えた高齢ドライバを支援するための自律運転知能システムの開発に取り組んでおり、本講演ではその概要と幾つかの核となる技術を紹介する。	
16:40～17:30	<b>「柏市における ITS の取り組みについて」</b> 小池 健二 柏市都市部都市計画課 副主幹 内藤 義之 柏市土木部交通政策課 主任
公用車の事故削減と柏市域における交通事故削減を目的とした「柏市交通安全プロジェクト」、ならびに簡易路面調査による損傷の見える化と維持補修計画への活用を目的とした「簡易道路劣化診断システム」の取り組みについて紹介する。	

※都合によりプログラムが変更となる場合があります。



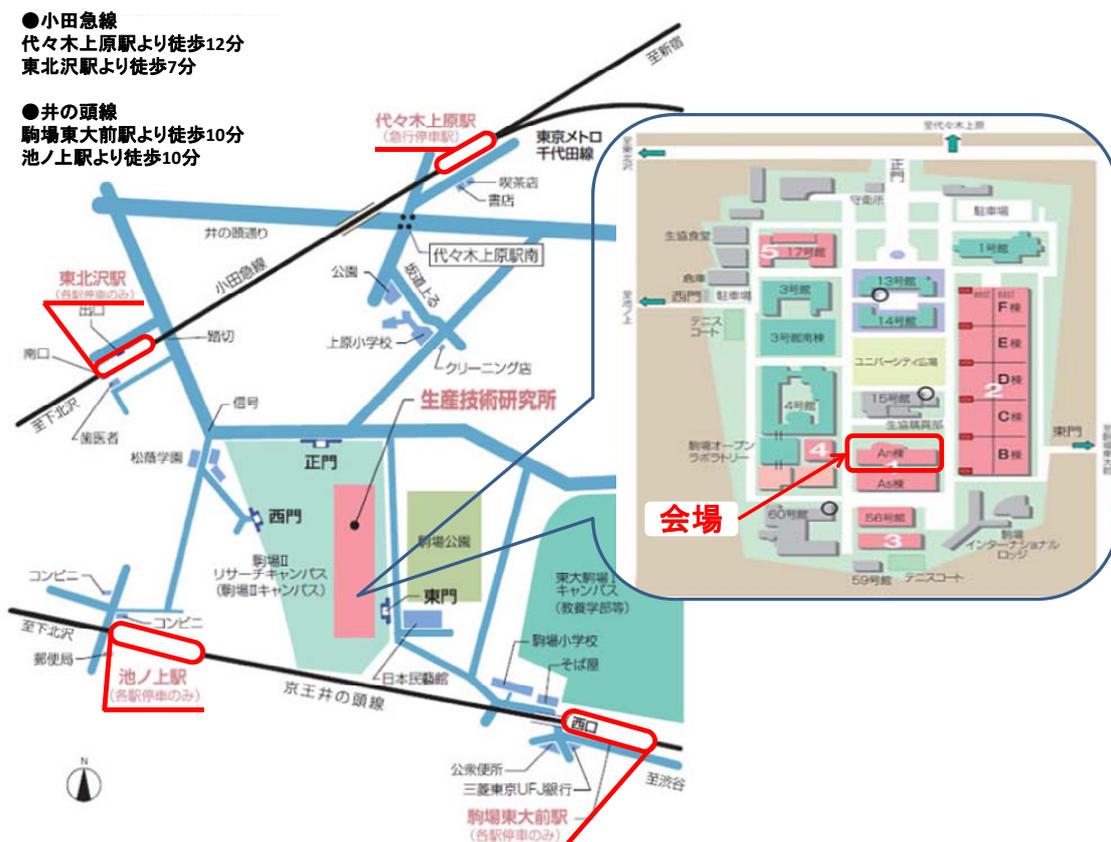
鉄道試験線



ITS 実験用交通信号機

# アクセス

●1月21日：東京大学生産技術研究所コンベンションホール（An棟2F）



●1月22日：東京大学生産技術研究所千葉実験所 大会議室（事務棟1F）

\* 構内に、売店・自動販売機等はありません。

